

教育目標		豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力 ・自分で考え、行動する子ども ・健康でのびのびと活動する子ども ・みずみずしい感性をもつ子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・仲間と共に伸びる子ども						
重点目標		指導の重点 (1) 幼児がいきいきと遊び、生活できる保育の充実をはかる (2) 広い自然豊かな園庭を生かした保育環境を園児とともに整備し創っていく (3) 近隣の小学校や保育園との交流を図る (4) 保護者の子育て支援をする						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	教育課程	・教育目標の達成に向け、24ヶ月を見通した指導のポイントを入れた教育課程の見直し	・一昨年度までの研究から分かった「伝えたい気持ちを育む」に加え、昨年度からの研究「学びへの意欲を育む」ための具体的な指導のポイントを教育課程の中に盛り込む。	・今年度の幼児の姿や保育実践から、教育課程を学期ごとに見直す。 ・保護者アンケートにおいて、「子どもは自然とかかわって遊ぶことが好きである。」「子どもは友だちと遊ぶことを楽しんでいる。」と回答した割合がともに85%以上になる。	3	・アンケート結果は92%、98%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 ・年度当初に教育課程に位置づけた学びへの意欲を育むための具体的な指導の について見直す必要がある。	・次年度は教育課程担当者が中心となり、学期毎に教育課程の見直しの計画を立て、職員間で共通理解する。	・保護者の理解を得ながら、行事等への参加を促し、ともに学びへの意欲をもつ子どもたちに育ててほしい。
	保育指導	・保育方法の改善と工夫(子どもが「好奇心・探究心」を支え、小さな成功体験につなげる環境構成と教師の援助を探る)	・年間4回講師を招聘し、園内研究会を行う。 ・短期指導計画の話し合いやエピソード記録による分析を行う。	・子どもが園生活の中で「好奇心・探求心をもった姿」から、子どもが試行錯誤できるよう、どのように支え、「小さな成功体験」となったかというエピソードを記録、収集し、どのような環境構成や教師の役割が必要であるか要因を探り、学びへの意欲につなげる。 ・保護者アンケートにおいて、「子どもは幼稚園で好奇心や探究心をもって過ごす中で、「やった」「できた」「楽しかった」という成功体験を得られている」「保護者の願いに、園はこたえている」と回答した割合がともに85%以上になる。	4	・昨年度と今年度のエピソード記録から、子どもの「好奇心」「探求心」を支える環境構成と教師の援助のポイントをまとめられた。 ・子どもの好奇心・探求心から、試行錯誤を経て「考え続ける喜び」「伝え合う喜び」「挑戦し続ける喜び」を通して学びへの意欲につながった事例を交換し、研修を通して、教師の資質向上に努めた。 ・アンケート結果はそれぞれ98%、93%(無回答含まず)の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 ・「保護者の願いに、園はこたえている」の設問においての無回答率が20%あった。幼稚園への願いを具体的に記述して回答する設問にしたため、現状満足している保護者が無回答としたとも考えられる為、次年度以降、設問を検討する必要がある。	・引き続き、講師を招聘し専門的指導を仰ぎながら、教師の保育実践力の向上を図る。	・子どもが園であったことを保護者に伝えた時、それを受けとめ、共感してもらえることが大切なことである。今後も保護者への理解を得られるように啓発してほしい。
	特別支援教育	・保育指導案(個別指導計画)の改善と工夫 ・保護者との連携強化	・個別指導計画を学期ごとに作成し、子どもの実態に合ったねらいや支援方法を具体的にする。 ・保護者の願いや重点課題を盛り込んだ個別の支援計画を作成し、園と家庭との連携を深める。	・個別のねらいや配慮を要する幼児の姿を職員全体で把握し共通理解する。 ・個別の支援計画を基に、保護者との懇談を行い、園と家庭で一貫した支援ができるよう連携を深める。(学期に2回以上)	4	・配慮を要する幼児の様子を職員間で話し合う機会を日常的に設け、実態および課題をタイムリーに把握できるようにした。 ・保護者と学期に2回の懇談をもつことができた。 ・引き続き、教師間・教師と保護者間で連携しながら、一貫した支援体制を確立していく必要がある。	・各々が主体的に研修会に参加する等して、専門性の向上に努める。	・今後も引き続き研修を深めていただきたい。

豊かな心・健やかな体	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健やかな幼児の成長を目指し、保育内容に体幹や、手指の発達を促す遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参観日などで、親子一緒に運動遊びを楽しめる保育を行い保護者にも体幹を鍛える大切さを実践、啓発していく。 体幹を鍛えるための様々な律動や運動遊びを保育に取り入れて実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊び指導員を年2回招聘し、遊びながら体幹を鍛えられる内容の講習会を企画する。 夏休みに親子でふれあいながら体幹を鍛えたり、手指の発達を促したりすることができる遊びプリントを配付する。 保護者アンケートにおいて「子どもは外遊びや身体を積極的に動かすことが好きである」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から引き続いて参観日に3B体操をしたり、運動遊び指導員による講習会での遊びや、夏休みの遊びプリントの遊びを、運動会の演技に取り入れるなど、継続して保育に取り入れることができた。 アンケート結果は96%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も幼児の実態に応じ、年間を通して体幹強化につながる遊びを計画的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体を動かすことは幼児期にとってとても大切なことである。専門の方の力も借りながら今後も意識的に取り組んでもらいたい。
開かれ信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの作成とそれに沿った避難訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の訓練を元に、園児や保護者に日頃からの防災意識の向上をはかる。 アレルギー、アナフィラキシー児の情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の避難訓練の実施。 全職員がアナフィラキシー児の非常時の対応を共通理解する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は計画通り実施できた。 年度当初に、全職員がアナフィラキシー児の非常時の対応を共通理解した。 安全面からも池を花の小道に変えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常時に正確、迅速に対応できるよう、学期ごとに対応を再確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に危機管理の意識をもって日々を過ごし、研修にも励んでもらいたい。
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなの広場」、「ちびっこ」や園庭開放を通して地域に開く。 積極的に園の情報を発信する。 保護者の教育力を活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日園庭開放を実施し、子育て相談に応じる。 預かり保育（せつようタイム）を実施する。 ホームページを月に2回以上更新し幼稚園の様子をタイムリーに発信できるようにしていく。 保護者による絵本の読み聞かせ会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 預かり（せつようタイム）を年間9回以上行う。 クラスだよりを月1回発行し保護者との連携を密にする。 ホームページを月2回以上更新する。 2学期以降、読み聞かせ会を学期に2回以上行う。 保護者アンケートにおいて、「幼稚園は子どもの生活や遊びの場としての環境を整えている」と回答した割合が85%以上になる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> せつようタイムの参加率は毎回約90%あり、保護者支援が図られた。 読み聞かせ会は年間の行事として位置づけて実施することが難しかった。 ホームページは2回以上更新することができた。 アンケート結果は98%の肯定的な回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、クラスだよりやホームページを活用し、園情報を積極的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> せつようタイムの回数については実態に応じて検討していく必要がある。
おける幼児期・学校教育に推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、保護者への人権教育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権をテーマにした保護者懇談会や、人権研修会への参加を呼びかけ啓発する。 職員自ら人権研修にすすんで参加し、人権感覚を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月に人権に関する懇談会を行う。 保護者に対し年1回以上の人権研修への参加をすすめる。 保護者アンケートにおいて、「子どもは家庭や園で自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 約95%の保護者が、人権研修に年1回以上参加した。 アンケート結果は94%の肯定的な回答が得られ、幼稚園での取り組みが評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、引き続き懇談の実施や人権研修の参加を呼びかけ、保護者と教師が連携、情報共有をしながら人権感覚を磨いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育の中での人権意識を高めてほしい。

学校関係者総括

アンケート結果からも保護者の理解を得ながら日々の保育に取り組んでいることがわかる。理解し、協力してくれる保護者であるということがせつよう幼稚園の強みでもある。また、地域の力をかりることができるのも公立幼稚園の強みでもある。保護者とともに、積極的に地域との連携を図っていただきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

一人一人の小さな成功体験を支えながら、異年齢の保育も充実させていく。 また、継続して家庭、地域と連携して子育て支援、園庭の活用に努める。